

レースっていいよね
第29回 「バイクはライトウエイト」の巻

10年来の悪友、前田というのがいる。この第6回にも書いた、ヤツだ。
ちなみに、レーシングオンに載ってた前田さんでは断じてない。尊敬する前田さんの名誉のために。

ヤツはバイク好きである。私がバイクに引き込まれたのもコイツの影響が少なからず、ある。
ところで、オートバイといえば最近ではレトロとアメリカン、そして規制緩和による大排気量車が人気だ。レトロとアメリカンに共通するのは、ウルサイ上に遅い。私の求めるバイクへの欲求はこの種のバイクは答えてくれない。
これらの存在意義は生活域のファッション性にあるのであり、そこには「走る魂」は無い。

ビッグバイクは教習所で取得可能となったが故に、爆発的な人気を得た。しかしその影響で、ビッグバイクに乗るライダーの多くがいわゆる「教習所乗り」となってしまうという副産物を産んだ。残念ながらこの手の人達は、ライディングを探求する欲求は少ない。所有する事に満足感を求めるヒトが多いからだ。

では「自分は大排気量を求めるか？」と聞かれれば答えは当然「NO」だ。
大排気量のバイクの多くが「大きくて重い」という、「走る魂」を求める上で反比例する内容をはらむからだ。

「走る魂」とは「より速く、より前へ」という純粋な情念である。おこがましいかも知れないけど、これはサーキットでドライバーやライダー達が求めるものと同種類だと思う。違うのは安全マージンを大きく取らざるを得ないことと、その目的はあくまでも楽しんで走ることだろうか。

この情念を満たしてくれるのはやはり、バイクならレーサーレプリカを置いて他には無い。ただ、どうしてもそのスタイルから「ガキっぽい」という印象を拭い去れないのは事実で、メーカーがもっと大人っぽいデザインの2ストスポーツをデザインしてくれれば、きっとバイク本来の持ち味を楽しむライダーが増えることは間違い無いだろう。

とは言うものの、もともと「走る魂」なんてガキっぽい事言ってんだから、このままで良いじゃん、という気もする。

感じ的に、スズキのゲースと言うバイクのシルエットで、リアのスイングアームと2ストエンジンのバイクがあったら、妙にカッコイイと思うんだけど。

ま、そんなことはいいとして、しかし残念ながら世間は2スト撤廃の方向に移行しつつある。排気ガスによる環境問題云々らしい。確かに、2ストエンジンはオイルも一緒に燃やすから煙を吹く。昔のエンジンだとモクモク吐く。これは見た目にダーティーな気がしても当然だ。

でも、所詮バイクの2ストの排気量なんて大きくて250 cc 程度(500もあったけど)、大半は50 cc が占めている。
それに、最近のエンジンはコンピュータで燃調を制御するのが定石だから、驚くほど効率が良いし、煙も少ない。その上、エンジン自体の構造もシンプルだから、製造コストもメンテコストも安く済む。
ボートに使用される馬鹿デカイ2ストエンジンならともかく、2スト撤廃する前に、ディーゼルの排気を何とかした方が良いでしょうな気もする。

とにかく、近い将来はWGPでも4ストエンジンに移行する気配がある。

けれど、たった500 cc で200馬力近いパワーを搾り出す2ストエンジン、これって無茶苦茶熱効率良いと思うんだけど。ウチのシトロエンなんか、1400 cc もあって75馬力よ！？

確かに2ストエンジンを開発しても、市販乗用車にそれを搭載する車種が無い以上レースには導入しづらいうという理屈はわかる。でも、どっちにしろレースで使うエンジンをそのまま乗用車に使うわけでも無し、技術の過渡期になりつつある今になって研究を目的にレースエンジン作る建前も要らないと思うんだけど・・・。

バイクにはやはり2ストエンジンが合う。一度2ストの味を知ると、もう戻れない。この火が消えてゆくのが無性に悲しい。

